

重要文化財「吾妻鏡」・「北条義時下文」 原本特別公開

期間：令和4年7月16日（土）～9月11日（日） 会場：国立公文書館東京本館

令和3年（2021）は「承久の乱」勃発から800年を迎え、今年に入り様々なメディアでも鎌倉時代が取り上げられるなど、武家による初めての政権である鎌倉幕府や、その中心にいた北条氏に注目が集まっています。

そこで当館では夏休みの特別企画として、当館所蔵の重要文化財である「吾妻鏡」と「北条義時下文」を特別公開いたします。原本の利用を制限している貴重な資料ですので、この機会にぜひ御覧ください。皆様の御来館をお待ちしております。

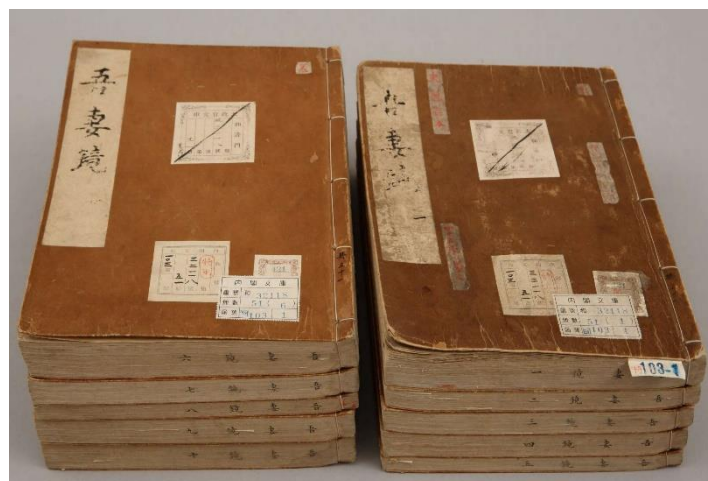
【特別公開資料】

「吾妻鏡」（請求番号：特103-0001（1、2、6））

鎌倉幕府が編纂したと考えられる歴史書。

本資料は、天正18年（1590）の小田原攻めの和議成立に際し、謝礼として小田原北条氏から黒田孝高（官兵衛・如水）に贈られ、のち孝高の子の長政から徳川秀忠に献上されたものです。

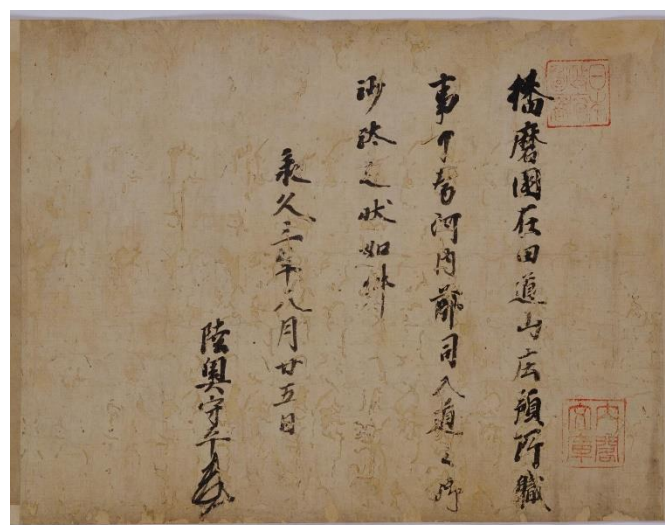
書写年代は16世紀初頭と推定されますが、中には新しい写本も含まれ、徳川家康が自らの所蔵本などを加えるなどし、現在に至っていると考えられます。紅葉山文庫旧蔵。



「北条義時下文」（請求番号：特073-0001（12））

北条義時の下文（上意下達の文書）で、平保業を播磨国（兵庫県）在田道山荘の預所職にするという内容です。日付が承久3年（1221）8月25日とあり、これは義時らが後鳥羽上皇と対立した承久の乱（1221）の直後に相当します。

本状が所収されているのは、朽木家古文書と呼ばれる資料群です。朽木家は近江佐々木氏の一族で、鎌倉時代に近江国（滋賀県）朽木荘の地頭となり、江戸時代まで旗本あるいは大名として存続しました。当文書群は、明治21年（1888）に内閣記録局が朽木家から購入したものです。



【展示期間】 ※各資料1点ずつの展示で、2週間ごとに展示替えを行います。

令和4年7月16日（土）から9月11日（日）

- ・7月16日から7月29日：「吾妻鏡」冊次1
治承4年（1180）8月17日条、源頼朝挙兵
- ・7月30日から8月12日：「吾妻鏡」冊次2
寿永元年（1182）11月10日条、亀の前事件
- ・8月13日から8月26日：「吾妻鏡」冊次6
文治2年（1186）4月8日条、静御前の舞
- ・8月27日から9月11日：北条義時下文

【お問合せ先】

- ・本特別公開の内容に関する取材・お問合せは、下記連絡先にご連絡ください。

独立行政法人国立公文書館

統括公文書専門官室 展示担当 （担当：長坂、鈴木）

[E-mail]tenji@archives.go.jp